

ライオンシティー2

徳山 中村 和行

令和5年の山口県医師会報夏季特集号の緑陰随筆「ライオンシティー」の続きを寄稿します。

福岡国際空港から直行便で6時間の飛行でシンガポール・チャンギ国際空港に到着し、空港からハイヤーで学会事務局が用意してくれたホテルに向かい、無事にチェックインを済ませ、近くのモールの中にあるスーパーへ夕食の食材を買いに出ました。現地時間で4時過ぎですが、天候は晴れ、外気温は30℃、湿度は80%を超えています。モールの広場では、多様な肌の色の若い(70歳を超えているかも)も若き(中学生かな)も女性たちが目のやり場に困るような派手な運動着を身に纏い、アップテンポの音楽に合わせて運動していました。家内がJazzerciseとは違いますねと言っていましたが……。モールの中のマクドナルドでスマホによる注文騒ぎの後、家内の機転でバーガーキングの店員に直接注文して食材を手に入れ、先ほどのスーパーで買い求めた果物やカット野菜と飲み物を手にしてホテルに戻りました。

ホテルが国際会議場のEXPOに近いビジネスパークエリアにあるためか、MRTと呼ばれる地下鉄・高架鉄道の駅が最寄りになって市街地への利便性もよく、街並みも整然としてゴミもなく(法律でゴミ捨ては罰せられます)、夕暮れ時でも女性たちが散歩しています。ホテルのインターネット環境も整備され、セキュリティーシステムも悪くないのですが、たまたま家内のカードキーの入力に不備があり、難儀したようです。フロントで毎朝カードのチェックをしておくといいようです。

さて、この度のシンガポール訪問の目的は、アジア・オセアニア地域ヒトプロテオーム機構(AOHUPO)の20周年記念式典において記念講演をすることですが、折角ですから、家内と少しばかり贅沢な食事をしようということになり、

シンガポールのラッフルズ・ホテルのアフタヌーンティーを味わうことにしました。ラッフルズホテルは、イギリス植民地時代に建てられたものでリニューアルされてはいますが、インド人のドアマンの衣装やグランドロビーの内装は当時を想わせます。また、ホテル内のラッフルズ・ガーデンと呼ばれる西洋式の庭園にはトーマス・ラッフルズの胸像などもあり、噴水や樹木もよく手入れされ、回廊には紅茶やワインあるいは貴金属の装飾品などの店が雰囲気に調和して並び、気持ちの良い空間でした。予約した時間になると係が席に案内してくれます。食前にはシャンパン(ロゼ)を、紅茶はマリアージュのアールグレイを味わいながらのサンドイッチは美味でした。ハーブの生演奏を聴きながら1時間半のゆっくりとした時間を楽しみました。実は、今回のAOHUPOの式典を企画したシンガポール国立大学教授のMaxと奥さんのConnieから昼食に招待されたのですが、こちらの先約で申し訳ないことをしました。記念式典の翌日にはCongress dinnerでMaxとConnieに会う約束をしました。家内はConnieへの手土産として和菓子を事前に注文しており、福岡国際空港から出発する前に国内線の売り場で受け取っていました。家内は、海外で味わっていただくので英文で和菓子の説明があれば良いのにねと、店員さんに言っていました。

さて、5月8日の午後4時からAOHUPOの20周年記念式典が始まりました。今年からAOHUPOの新しい会長に就任したマカオ大学のTerence Poon教授が式典の開会の辞を述べ、続いてAOHUPO歴代会長の一人一人に記念の楯の授与(写真1)があり、講演が続きました。事前にMaxが予定のプログラムに沿って各講演時間を7分にしてほしいと演者に伝えていましたが、

最初から 15 分を超える講演が続き、Max はじめ後続の演者はやきもきしていました。私は 3 番目でした。まずは、今回の記念式典を企画してくれた Max と組織委員会に深甚の謝意を述べた後に、「初代と第二代会長の講演は長くなると予想していたので、私は 7 分で済ませます」と宣言し、1 枚のスライドで AOHUPO の歴史を振り返った後、ヒトプロテオーム研究の最新の臨床応用として Mild Cognitive Impairment Screening Test (MCI Plus) を紹介しました。この研究は、徳山医師会病院と筑波大学発スタートアップ企業の MCBI との共同臨床研究の成果で質量分析法による血漿タンパクのバイオマーカー探索による軽度認知障害の新しい早期診断法の開発のためのものです。

日本では令和 5 年 6 月 14 日の参議院本会議で認知症基本法が可決・成立し、認知症患者との共生社会を目指すことになりました。高齢化が進む日本にとっては、認知症の早期診断による病気の進行を予防することは極めて重要な課題です。過去の膨大な検査データの臨床評価と種々の測定機器の自動化によって、一般の臨床検査は迅速かつ正確に行われるようになり、現代の医療にはなくてはならない手段となりましたが、厚労省の診療報酬の算定基準から、一検体一項目測定が一般的です。しかし、病気の原因は単一のものではない場合が多く、特に変性疾患と呼ばれるものについては、部位や時期により多様な症状を示すものがあると同時に、早期診断によりその病因の一つでも取り除くことによって、病気の進行を遅らせることができます。最近の質量分析法の技術開発によって微量の検体を用いた同時多項目測定が可能になり、多数の血漿タンパク質を同時に測定することでさまざまな疾患の早期診断が可能になりつつあります。特にアルツハイマー病などの進行性の認知障害の発症機序も分子レベルで明らかになり、抗体医薬による治療法の開

発が進んでいます。

さて、シンガポールでの AOHUPO 20 周年記念式典に戻ります。すべての歴代会長の講演が終わり、壇上には各国の AOHUPO 理事が揃い、記念のケーキカット（写真 2）が始まりました。歴代会長はじめ AOHUPO 新会長がケーキカットを行い、多くの参加者とともに 20 周年を祝いました。

追記：第 11 回 AOHUPO 国際会議並びに 20 周年記念式典への参加については、一部を山口大学基金名誉教授プロジェクトから支援を頂きました。



写真 1. AOHUPO 歴代会長に記念の楯の授与。右側が AOHUPO 新会長の Terence Poon 教授、左が第三代会長の筆者。



写真 2. AOHUPO 歴代会長と新会長による記念のケーキカット。前列左から 2 番目が筆者、前列中央が Max で、後方の壇上に立っているのが各国の AOHUPO 理事。

SEIKO の壁時計

柳井 織田 哲至

「あなたの人生を円グラフで表現して下さい」と小川 哲著の『君が手にするはずだった黄金について』に書かれていました。この質問は何を意味しているのでしょうか。人生において重要だったもの？印象に残っているもの？この問いに答えようとすると、自分の人生を思い返すしかありません。人生は幅広い概念で、時間、経歴と言う側面を持っていますが、自分一人だと平凡な一日で自分の記憶がすっかり消えてしまいます。結婚してからであれば、何とか記憶がよみがえります。

我が家の壁に掛かっている時計（写真1）は、壊れもせず、また狂いもなく時を刻み、私たち家族を44年間見つめています。昭和54年4月29日の結婚式の時にお祝いで頂いたのですが、誰からもらったのか思い出せません。この時計はセイコー（SEIKO）のクオーツです。女房の名前も誓子です。『黄金の刻 小説 服部金太郎』（楡周平著）は、セイコーの創業である服部時計店、精工舎の歴史がよく分かります。我が家のSEIKO時計が、のぞき見ていた人生の一部を少し書きましょう。

国立下関病院の貴船町の官舎の壁がスタートです。新婚旅行は結婚式のすぐ後ではなく、5月28日からロンドン、ジュネーブ、パリに行き、結婚後初の6月10日（時計の日）は自宅に居ました。一年後に長男が誕生です。誓子の陣痛、長

男の夜泣きの凄さ、母乳を2～3時間ごとに与えたのも見えています。血液から作られる母乳には、免疫物質とか脳を大きくし脳神経の発達に欠かせないミルクオリゴ糖があります。メラトニンも含まれているので2～3か月で昼夜の区別がつけられます。

昭和55年10月から新潟市のマンションです。舌が徐々に厚くなると乳離れをして言語が発達します。母親の子育てを促す神経ペプチドのアミリンが、視床下部の内側視索前野から分泌されますが、孤独も感知し易くなります。孤独は、夫やママ友との会話とか、美術を鑑賞することで解消されます。

昭和57年10月より山口大学の小串の官舎です。「ねーねー、お母さん、見て、女がタバコを吸ってるよ。」と電車の中で息子が話しかける時代で、私が煙草を吸っていたのも見られています。この子が、川崎病で大学病院に入院し、願掛けで止めたのも知っています。この時、下の娘は私の父と母に預けられ、木製のままごとの机と椅子を作ってもらい、慈愛に満ちた誓子の原稿が、朝日新聞の声の欄に載りました。

3%の消費税がスタートした平成元年から、周東病院の宿舎です。庭付きの独立した一軒家です。寝ている時に何故か私だけムカデにかまれ、すごい痛みで目が覚めたのも知っています。他の血液型に比べてO型は、蚊に2倍刺され易いと言われていますが、ムカデの情報はありません。

平成8年、実家のすぐそばに自宅を建て、現在も住んでいます。時計はリビングルームの壁にあり、寝室は見られていません。新婚旅行時、ルノワールの絵の前で撮った写真から憶測されるように（写真2）、いろんな絵が壁にかかり始めます。パリとか、植物が好きな誓子の心模様が出ています。特に山口県出身の香月泰男のフリージア（義父の好きな花です）は、すばらしい。絵は、言葉



写真1. SEIKO 時計

では表されない人間の本能を映す鏡です。美しいと感じれば、ドーパミンが分泌され眼窩前頭皮質の活動がアップし、快感を得ることが fMRI で証明されています。

現在の紙幣が初めて使われた平成 16 年、大学との付き合いが嫌になり、大借金を抱えて開業するかどうか悩んだ時に、ポーンと気軽に私の背中を押したのが誓子です。SEIKO 時計も当然承知しています。

平成 24 年 10 月、娘の三人目の子の陣痛も知っています。午前 6 時前に娘がお腹を痛がり、それを見ていた二人の子供たちが泣きわめいています。娘はトイレに行きたいと言いますが、誓子は、「そんなのはどうでも良いから、早くお父さんの車に乗って病院に行きなさい。」と厳しく言います。5 分位で病院に着き、即出産です。もし、トイレに行っていたら、あー恐ろしい。誓子の実家は、産婦人科もしていたので誓子の知識に感謝です。

分娩が多いのは、夜半から早朝と言われ、体内時計と非常に関係深いのです。他にも心筋梗塞、脳梗塞は午前中に多く、血圧が上がりやすい夕方から夜に脳出血は起こり易くなります。体内時計は、脳、皮膚、臓器を作る細胞に存在している時計遺伝子が関与しています。昼夜を問わず気ままな精子、卵子には、時計遺伝子はありません。光が目に入り、脳(視交叉上核)の時計遺伝子がリセットされ、正確な時間の情報が神経から内分泌情報に変換され、全身の細胞に伝えられます。外界のリズムに同調する能力を持つのは、脳の時計遺伝子のみです。オーケストラで言えば、視交叉上核が指揮者で、末梢の細胞(60兆個)が演奏者です。

年を取ると日常生活の指揮者は誰になるのでしょうか。さだまさしの関白宣言!するぞ。「♪…年をとったら 俺より先に 死んではいけない…お前のお陰で いい人生だったと…♪忘れてくれるな 俺の愛する…生涯 お前ただ一人♪」年を取ると強きものは女、そして弱きものは男であると理解できます。振り返ると見守ってきた SEIKO に感謝です。さだまさしと仲の良かった谷村新司さんが、旅立たれて寂しいです。私達が結婚した頃の「いい日旅たち」「陽はまた昇る」「チャンピオン」「昴」どれも素晴らしく今でも聴きます。



写真 2. 印象派美術館 (現在のオルセー美術館) ルノワールの絵の前。この頃は写真可でした。

普段、時間を気にした生活をしている訳ではありませんが、若い時は、時間が長く感じますが、年を取るにつれて時間が速く経ちます。ジャンナーの法則と言われ、心理的な時間の長さは、年齢に反比例し、70 歳の人間にとって一年は人生の 70 分の 1 ですが、10 歳の子供にとっては 10 分の 1 です。若い時はいろいろな出来事があるから長く感じ、年を取ると新しいことは頻繁にないのであつという間に一年が過ぎるのでしょう。

また、歳月はすべての過去を美しくしてくれる気がします。新婚旅行の時、パリでアメリカ人老夫婦に新婚時代の写真を見せられ、同じ場所で同じように写真を撮ってくれと頼まれたことを思い出しました。時を超えて同じことができたいのですが、ノートルダム大聖堂のバラ窓ステンドグラスの前(写真 3)で写真を撮ることが、平成 31 年 4 月 15 日の火事で破壊されできなくなりました。残念です。年を取っても思い出作りのために旅はしたいです。



写真 3. ノートルダム大聖堂
バラ窓ステンドグラスの前

野球
 ~その文化論的・歴史論的・私的考察~
 山口大学 しまふくろう

野球は単なるスポーツではない。それは文化であり、歴史であり、ぼくの人生の一部でもある。

木造公民館前広場。子供の頃、ぼくたちの遊びはたいていの場合、紙製ボールや軟式テニスボール、木の棒のバット、手肉のグローブを用いた草野球であった。ぼくはキャッチャーを好んでやった。時に自分でもびっくりするようなヒットを打った。この時の興奮は今でも至福感を持って思い出すことができる。

運天港の栈橋。夏休みの夕方、大人に交って子供たちも栈橋の上から自家製の竹ざおで魚釣りをした。自家製といってもその辺に生えている単なる細い竹である。餌はメリケン粉に魚缶詰の汁を練り込んだだけのものである。これでも不思議なことに、時にチヌが釣れた。小判鮫が釣れたこともあった。ボラもいた。この魚釣りのお供は、ラジオから流れてくる野球ナイター中継である。球団は巨人とその他のセ・リーグ球団しか存在せず、パ・リーグなるものがあるのも知らなかった。巨人戦しか放送されていなかったからである。当時は王・長嶋選手の全盛時代で、後日、長嶋選手の「巨人軍は永久に不滅です！」の名言もラジオで聴いた（最近の「巨人軍」の凋落ぶりは目も当てられない）。その時分、広島に安仁屋投手がいた。唯一のプロで活躍している地元出身選手らしいとのことであったが、たまたま巨人戦に先発する以外は放送もされないため、あまりよく知らなかった。

白黒TVの前。故郷に電気が通り、各家庭でもTVが観られるようになると、大人や子供たちは野球のナイター中継に夢中になった。日々のキビ

畑仕事を終え、夕食時にビール片手に野球中継をみる。最高のリラックスタイムである。問題は午後9時になると中継が終わることである。勝負のクライマックスは常にこの後にくる。このストレスは残酷で、裁判所に訴えたいほどであった。当時のスポーツ中継といえば、野球を除けば毎週金曜日のプロレスやボクシングのタイトル戦中継が時にあるだけで、サッカーやバスケットボールなどは観ることがない。特にみんなが燃え上がったのが、「夏の甲子園」である。まだ米軍統治下にあった1968年夏。信じられないことに興南高校がベスト4まで進出した。彼らは英雄で、巷では「興南旋風」と呼ばれ、那覇市内ではパレードまで行われた。無理からぬことである。まず九州予選をなかなか突破できない（当時は県ではないため、現在の1県1校ではない）。また、たまに出るといつも1回戦でコテンパンに負けていた。例え9回までリードしていても、9回裏に逆転負け、というのがお決まりのパターンであった。

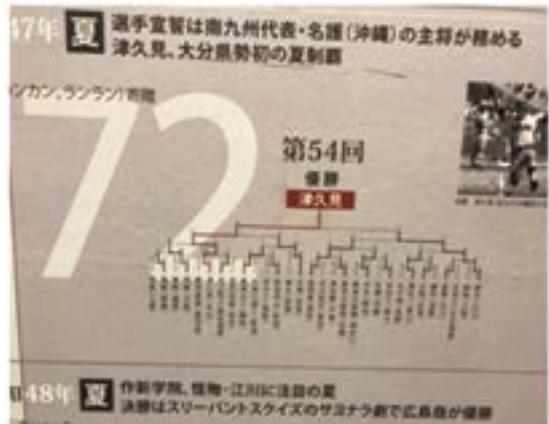
復帰の年。1972年5月、沖縄の施政権が日本に移った。高校2年生のぼくにとって、それ以上のビッグニュースは母校名護高校が夏の甲子園に初出場したことである（写真）。彼らは初めて身分証明書無しで本土に渡航したチームとなった。この甲子園歴史館の記事をみると、選手宣誓は南九州代表・名護の主将がつとめ、初戦の相手の栃木の足利工に4対5で惜敗していることがわかる。この試合もちろん、家族全員畑へ行くのをやめて応援していた。この試合は名護にホームランも出て途中まで優位に進んでいたが、終盤にいつものように逆転されて1回戦敗退となった。それ以来、ぼくはずっと母校の甲子園再出場を待ち望んでいるのだが、まだ機会はやって来

ない（いつも年休取得の準備はしている）。その代わり名護高ラグビーチームは地元の強豪で、毎年のように花園に出場している。

下関市営球場。横浜ホエールズ（当時）が巨人とのオープン戦をするとのことで、女房と旧下関市営球場に観戦に行った。球場入り口近くにいた時、巨人軍のバスがたまたま到着し、選手たちが降りてきた。ぼくはすっかり舞い上がり、夢中になって原選手を探しに一人で駆けて行った（それ以来女房は野球が大嫌いになった）。この試合は非常に印象に残っている。巨人先発は三浦投手であった。回を重ねるにつれ、球場に不思議な声が聞こえ出した。最初声の出所はわからなかった。投球に苦しくなってきた三浦投手が発する「気合い」の声だと気づいたのはしばらくしてからであ

る。投手は声を出すのだ！「一球入魂」の意味をこの時初めて理解した。「生の試合」を観ないと決して分からなかっただろう。帰りの人混みを避けるため、早めに球場を後にしようとして二人で出口へ歩いていると、後ろからどよめきが聞こえてきた。何事かと思って階段を戻ると、新人投手が投げていた。球はまさにうなりをあげ、キャッチャーミットは大砲のように鳴り響いていた。この年、槇原投手は衝撃的なデビューをした。

広島市民球場。ある日広島で開催された集会を途中で抜け出し、旧広島市民球場にデイゲームを観に行った。3塁ベース真横の前から5列目に奮発して指定席を買った。この日の広島東洋カープ町田選手の活躍は素晴らしく、ヒットを放ちぼくの目の前で3塁ベースに勢いよく滑り込んでき



D	A
C	B

写真説明：

- A. 母校名護高等学校が初出場した時の勝敗表。大分の津久見が優勝。
- B. 出場記念のボール。
- C. 興南高校が春夏制覇した時の優勝メンバーサインボール。隣は大阪桐蔭藤浪投手のスパイク。
- D. 2度目の甲子園観戦風景。

た。その時の「タッタター・ザバー」という音は今でも耳に残っている。その姿に、一瞬にして心奪われた。その日彼は3塁を守っていた。その頭より大きな大腿を見ながら、鍛えられたヒトの美しさに感動した。それでも彼がカープの軸に定着したという記憶がない。当時ぼくらは中四国大学医局対抗野球大会を毎年行っていた。ぼくがキャッチャーでキャプテンになった年、広島大学医局に対抗試合を申し込んだ。かれらは広島市民球場でのナイトゲームをセティングしてくれた。バスを貸し切り、皆で宇部から球場へ乗り込んだ。選手が着替えるロッカールームで着替えをし、内野だけ煌々と照らされた球場で試合を行なった。両チームの先発メンバーの名前が電光掲示板に表示され、気分はまさしくプロ野球選手である。この日2塁打を打った。いまでもその瞬間を鮮やかに思い出せる（なぜかいつもスローモーションなのだ）。

ドジャースタジアム。1989年LAへ遊学した。当時のドジャースのエースはハーシュハイザー（Orel Leonard Hershiser IV）投手で、前年は23勝8敗・防御率2.26の成績を残し、シリーズMVPを獲得していた。アスレチックスとのワールドシリーズでは第2戦で3安打完封、さらに自ら1試合3安打を記録。第5戦でも2失点完投勝利を挙げ、4勝1敗でワールドシリーズMVPも獲得していた。その活気にあふれていたドジャー

スを観に、家族でドジャースタジアムに、買ったばかりのヒュンダイ車で出かけた。ドジャースタジアムは巨大で市のほぼ中央にあり、市庁舎やリトルトーキョーからも近く、ひと山を削って作られたようで、フリーウェイからのアクセスも完璧である。この時初めて一般の、飾りのないアメリカ国民をみた。手に入れたシートは一塁側内野席の最上部で、怖いほどの傾斜があった。試合開始前のセレモニーでアメリカ国歌を起立して聴いた。他国の国歌ながら異国に来た心細さも重なり、目頭が潤んだ。Seventh inning stretchで「Take me out to the ball game」を全員で歌った。野球がアメリカ文化の核心の一つになっているのが素直に感じられた。この日、駐車場から車の流れに乗って球場を後にしたら、道に迷って難儀した。

ベースボール伝来。わが国にベースボールが伝えられたのは1872年（明治5年）、東京大学の前身である開成学校のアメリカ人教師ホレス・ウィルソンらが、母国からボールとバットを持ち込み学生たちに野球を教えたことに始まるらしい。それから150年余り。とうとうぼくたちは、全ての観点において史上最高の野球選手を生み出すまでになった。これは奇跡でも何でもない。一つの文化が広く深く国民の間に重層し、100年以上の時間をかけて熟成したからである。



若山牧水と石川啄木

徳山 篠原 淳一

若山牧水は宮崎県で開業医の長男として出生しましたが、家業を継がずに早稲田大学に進学し短歌の道を志しました。大学では北原白秋が同窓でした。

牧水といえば当時「旅と酒の詩人」として、すでに 20 歳台で名を馳せています。

ご存じのように「幾山川越えさりゆかば・・・」や「白鳥は哀しからずや・・・」など浪漫的な歌風が特徴です。

牧水の短歌の背景には故郷宮崎が色濃く出ています。故郷宮崎の豊かな自然が彼の作歌の強いモチベーションになっていたようです。

牧水は終生日本中を旅した人物で、長男にも旅人と名付けるほどした。彼は旅先々の至る所でその土地の自然や人物を詠みこんでいます。

最近、宮崎在住の牧水研究家が「牧水の短歌にはその土地の自然が色濃く映し出されている」と指摘をしていますが、まったく同感です。

自分と自然との強い一体化と表現できます。牧水にとっては、山や川などの自然は自分の分身だったのでしょう。牧水のこころは自由自在にその土地の自然に出入りして短歌で表現していたのです。その歌風も浪漫的万葉調で胸に浸み込むような作風です。

また、牧水は短歌のほかに紀行文にも傑作を多く残しています。現在も俳画風の書が多く残されていますが、書体も絵もゆったりとしたおらかなもので、牧水の人柄そのままです。

まさに「書は人なり」です。

「酒と旅の歌人」といわれるように、若いころからの大酒家のため晩年は重度のアルコール性肝硬変で病床に伏せることになります。

彼の晩年の短歌に飲酒の風景がリアルに表現されています。「白玉の歯にしみとおる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり」といったものです。

また、入院中主治医に飲酒を強くたしなめられて作った歌もいくつか残っています。

牧水が「酒聖」と称される由縁です。

歌人でもあった喜志子夫人と弟子の大悟法利雄氏が牧水の死後に遺稿をまとめて出版し、これが現在もひろく詠み継がれています。

一方の石川啄木は盛岡市の出身です。

当時、三行の短歌を試みたりする天才肌だったようですが、生前は友人の金田一京介氏などに莫大な借金をして回っています。

背景に自分が世間に受け入れられないという屈折があったようで、短歌にもその様子が散見されます。「はたらけどはたらけど猶わが生活楽にならざりじっと手を見る」という歌があります。

「手を意識する人は自意識が強い」という説がありますが、啄木は「我執のひと」と表現できません。終生病弱な体で大きな借金を抱えた作家活動でした。

牧水との共通点とはといえば、啄木も郷里が心に大きく根付いていたところでしょう。

自分の故郷を「ふるさとの山に向かひて言うことなしふるさとの山はありがたきかな」と素直に表現しています（牧水にも似たような歌がありますが・・・）。

こういった苦しい生活のなかにも、啄木にはいつも郷里盛岡が根付いていました。

故郷は彼を支え且つ励ます大きな存在だったのです。

あまり知られてないことですが、牧水は生前啄木と親交があったようで、葬儀に臨んで啄木を深く悼む歌をいくつか残しています。

一見すると牧水と、啄木は全く対照的な歌風です。しかし両者共、「永遠の青春歌」だと思います。

俳句ギャラリー

ふしの句会（山口市医師会）

愁思また懐古憎悪のバブル考

冴ゆる夜に働き方のゆとりとは

身に入むや新人類も還暦に

末兼浩史

冴ゆる夜や父母の面影若きまま

寒稽古正座に隠す躰かな

夢の中へ姉のセーター脱がぬまま

佐々木映子

初み空厳然として千木高し

初場所や国際色も豊かにて

齢ともに量より質の賀状かな

坂本強

俳句ギャラリー

ふしの句会（山口市医師会）

清水の坂の紅葉や糸がほ行き
山茶花やふむふむ囲む将棋かな
余生では最も若き日初日の出
老いて病むさだめ受け入れ除夜の鐘
学友の笑顔や永遠に初日の出
いくつもの慶事願ひて大福茶
寒卵ひと息で巻く母の技
泣き笑い重ねて今日の七五三
冬ぬくし猫の親子が欠伸する

杉山元治
淵上泰敬
成重隆博

キャンピングカーのすゝめ

長門市 綿貫 浩一

興味を持ったきっかけ…

自宅やホテルなどの建物以外で、寝泊まりすることが大好きな人々がいます。しかし、よくよく観察すると、その中には2種類のグループが存在することが分かります。一つはアウトドア志向の強い方々で、大自然の中でテントを張って寝泊まりするのが好きな人たちです。もう一つは好奇心旺盛で名所旧跡は残らず回るような旅好きの方で、車中泊を中心としたインドアタイプの人たちです。私は、元々は前者から入りましたが、最近では後者からキャンパーになる方が増えています。実際、車中泊用の車やキャンピングカーが飛ぶように売れているようすし、サービスエリアや道の駅では沢山の車が一夜を明かしています。今回、貴重な紙面の一部をいただきましたので、今のキャンピングカー・ライフに辿り着くまでの経緯を交えながら、その魅力について、たっぷりお伝えしたいと思います。

遡ること22-23年前、テントを張ったりバーベキューをするために県内各地や九州方面を巡っ



カニの爪オブジェ（北海道紋別市）

ていました。徐々に慣れてくると、行ってみたい場所がいくつか出てきます。その中でも、キャンパーなら誰もが憧れる究極の場所…それは、北の大地「北海道」です。今から17年前の夏、たまたま大学勤務だったこともあり、2週間の夏休みの全てを使ってマイカーで北海道に渡りました。当時乗っていたアルファードにキャンプ用品を積み込み、テントを建てては次の場所へ宛もなく移動するジプシーのような旅…これが本当に楽しくて楽しくて、一気にキャンパマニアへの道を突き進みました。後々、家内に聞くと、ホテルに泊まってレンタカーを借りればいいのに…と心の底では思っていたようです。勢いそのままに、翌年も2週間、北海道をテントキャンプ。2年かけて北海道の主な観光地は、ほぼ制覇いたしました。本当に充実した楽しいひと時を過ごすことができましたが、旅先で何台もすれ違うキャンピングカーが気になっている自分に、当時から、うすうす勘付いていました。

それから数年、私にとっては激動の時代を迎え、しばらくは近場でキャンプをする程度で、キャンピングカーのことは頭から消えておりました。大学病院から長門への転勤、さらに開業へと目まぐるしく環境が変わり、無我夢中で働きました。ふと少し落ち着いた頃に、再び北海道キャンプへの願望がむくむくと膨らんできました。すぐに家族を連れて一番近い福岡のキャンピングカー販売店へ…話を聞くだけのつもりが、気がつくやうに契約書にハンコを押していました。アウトドア派で旅好きではありましたが、ここにきてインドア派の要素がさらに加速することになります。

さて皆さんは、キャンピングカーと聞いて何を想像しますか？あれば楽しいけれど、わざわざ車で寝んでもホテルに泊まればいいじゃん。まさにウチの家内と同じことを大半の方が思われるはず。そんな疲れることせんでも、ゆっくりできる所で寝た方が…実は、ここから既に間違っています！例えば欧米人はバカンスを楽しむために、でっかいキャンピングカーに乗ってフロリダや地中海に大挙して押し寄せます。当然、オフをゆっくり過ごすためなので、自宅以上にくつろげないなら行くはずがありません。実際、今時のキャンピングカーはダブルベッドで、マットの下にはウッドスプリングが仕込まれています。空調もエアコンやヒーターが完備され、真夏の道の駅や真冬のスキー場でも、子供たちは短パンにTシャツでぐっすりと寝ています。防音断熱も徹底的にされているので、真横に暴走族でもない限り、周囲もほとんど気になりません。自宅の次に自分仕様にカスタマイズされていますので、下手なホテルより間違いなく安眠できます。実際、目が覚めて、ここはどこだろうとハッとすることもよくあります。超快適な移動式別荘とでも申しておきましょう。

忙しい人こそキャンピングカーが必要！

通常、診療所の医師（開業医）は土曜午後と日曜の合計 1.5 日しか休みが取れません。しかしキャンピングカーがあり、どこかで 2 連休確保できれば、大阪ぐらいならゆっくり遊んで帰ることができます。例えば土曜日が祭日で日曜日と併せて 2 連休が取れたとします。まず前日（金曜日）の仕事が終わり次第すぐお風呂に入って、午後 6 時過ぎに出発すれば、深夜 12 時前には神戸周辺の三木 SA や西宮名塩 SA という巨大な何でもあるサービスエリアに到着できるはず。いわゆる「前泊」です。これは翌日を最大限に活かすことができる魔法のような方法です。その日はそこで寝て、翌土曜日の早朝、USJ に一番乗り。ゆっくり遊んで、午後疲れた頃に大阪をあとにし、関西圏の道の駅や SA に泊まります。日曜日は神戸・姫路・岡山・倉敷・尾道あたりをいくつか観光して、昼食後には帰宅の途につきますが、夕方には山口県まで帰り着いているはず。

ここで、ほとんどの皆さんが、長距離運転で相当疲れるんじゃない？と思われるはず。4-5 時間の運転というのは、確かに長いと思います。しかし 2 時間に 1 回程度は休憩を取るの、実際は福岡や広島へ日帰りするぐらいの時間です。帰りの運転があるのなら大変ですが、着いた先が宿泊場所、つまり行きっぱなしでいいので、実はそれほど疲れません。確かに、それなりに気合いのいる距離ではありますが、思ったほどのことはないと思います。子供達もビデオ鑑賞やスマホゲームに集中しているので、「えっもう休憩？」とよく言われます。

もう一つのメリットは、晩御飯を食べに、かなりの遠出ができることです。自宅からタクシーで戻れる範囲には、やはり限界があります。しかし移動式別荘があれば、その行動範囲がぐんと広がります。駐車場が確保され翌朝帰宅できる場所は、全て徒歩圏内ということになります。例えば、道の駅「阿武町」「西ノ市」あるいは埴生の「みちしお」などは美味しい食事に温泉まで付いています。宴会の後は車に戻って 2 次会ですが、自宅では絶対やらないトランプをしたりします。翌朝は 7-8 時ぐらいには帰宅していますが、翌日も有効に使う！…これは大変重要なポイントです。そうすることで土曜の夜に出たのなら、日曜日にも別の予定や仕事が入られます。だから仕事で日曜当番のときは、前夜たいてい出掛けています…仕事のため何もできない週末が嫌いなんです！新下関駅に停めて、新幹線で小倉や博多まで飲みに行くこともあります。そのオーナーやソムリエには間違いなく驚かれます。おかげで 2 回目からは顔馴染みです。

ここでまた、よくある質問ですが、キャンピングカーの購入費や維持費を考えたらホテルに泊まったほうが安いんじゃないの？…本当によく言われます。確かに元を取ることは、まず不可能です。結局のところ、機動性の問題に尽きると考えています。自分が起きて、顔を洗って歯磨きして着替えたら、その時点で出発です。まだ子供達はパジャマのまま寝ていたり、家内は化粧もしていない状態だったりすることもよくあります。これ

がホテルだと、みんなが起きて朝食済ませて身支度を済ませて、出発は9時頃。次の目的地には、渋滞にはまって昼前に到着。激混みのレストランに並んでランチ…最悪のシナリオです。もしキャンピングカーがあれば、目的地には開園1-2時間前に到着。その駐車場で身支度をしながら、ゆっくりモーニング。開園少し前から並んで一番に入場。すいているアトラクションを満喫し、昼前に時間をずらして昼食。午後みんなが食事して少し待ち時間が減ったところで、もう少し回り、早めに退出。帰宅ラッシュに巻き込まれる前に、悠々と自宅に…完璧です！



白石公園はこだてオートキャンプ場（北海道函館市）

車中泊を中心としたキャンピングカーのインドア的な使い方をお話ししましたが、まさに「自宅玄関を目的地の目の前に持ってくる」という発想を理解していただけたでしょうか。

やはり基本はキャンプするための車

やや話が脱線しましたが、名前が示す通り、本来のアウトドア的な使い方についてお話ししたいと思います。

絶景の宿やリゾートホテルが嫌いな方はまずおられないと思います。どうせ泊まるなら、高層階やオーシャンビュー、その景色を誰にも気兼ねせず独り占めできるような部屋を希望されるはず。しかし誰もが望む部屋、イコール「お高い部屋」ということになります。ここにはもちろん競争原理が働いており、休前日などの繁忙期で希望者が多ければ料金が吊り上がり、その日程はますます取りにくくなります。実際、少し高くても眺めの良い部屋をとるか、どうせ寝るだけなので安さを優先するか、誰しも経験したことがあるジレンマに陥ります。両立できる唯一の方法は自分の家をそこに建てることです。それなら一番良いところで値段も安く泊まることができ、希望が完璧にかなえられます。それを可能にする秘密の道具が、移動式別荘のキャンピングカーなのです。さらに、その場所でも一番美味しい食べ物やお酒が、現地値段でそれも産地直送の超新鮮なまま手に入ります。

場所はとりあえず一等地を確保したら、次に最高の場所を彩る料理やお酒が必要になります。もちろん最高の食材までは準備完了。しかし、ここで致命的な問題が…そこに三ツ星シェフや世界的ソムリエが居ないんです。アラブの大富豪なら金銭で準備できるかもしれませんが、通常は無理です。そこで登場するのは、普段はキッチンに絶対立たない料理ド素人の自分。ワイングラスを回しながら何となくそれなりのこだわりを持ってはいるが実際は人まかせに飲んでいる自分。周囲を見回しても、残念ながら他に手伝ってくれそうな人はいません。やるしかありません！YouTubeやクックパッドを見ながら、見よう見まねで適当に作る。しかし、ここで奇跡が起こります。ただ塩コショウを振って焼いただけの肉、ありきたりのビールやワインが…まっまさか、高級ホテルの鉄板焼のレベルをはるかに超えているではありませんか！これがアウトドア・マジック！屋外で食べる、これこそが最高のスパイスなんですね。

例えば北海道では地元の市場でさっきまで生簀にいた魚介類、農家さんの顔写真とともに泥のついたまま段ボールに山積みされた生野菜。マズイ訳がありません。それを大自然に抱かれた北の大地で「焼く」、ただそれだけ。間違いなく、至福の時を過ごせます。ある意味、最高の贅沢なのかもしれません。ここで注意点が一つ。炭と箸は、必ず国産のものを自宅から持参。東南アジア産のマンガローブ炭、中国産の漂白箸ではダメです。何のための最高食材か分からなくなります。ここ

は、お金を掛けなければいけない絶対譲れないところ です。

家族で過ごす週末。響き渡る歓声、はじける笑顔。そして満点の星の下、揺らめく炎を無心に眺めながら、オンザロックを傾ける…絵に描いたような幸せな家庭を演じてみませんか!?いつもの残った仕事をせず、いつものテレビを見ず、いつも絶対手放さないスマホを置いたままにする。普段やらないトランプで遊び、普段やらない自転車に乗り、普段は絶対やらないバドミントンをする。そうすることで、代えがたい何かをもたらしてくれるはず です。そのおかげもあり、子供たちは、大学生や社会人になった今でもキャンプやバーベキューが大好きです。

実際、キャンプは大変です。確かに、一手間かかります。面倒くさいといえば、それまでです。しかしキャンピングカーが、ズボラなあなたのわがままを叶えてくれます。かなりの手間を省いてくれますよ。さあ悩んでいる場合ではありません。買うのはいつでしょう? もちろん、今でしょう! (古っ)

ノープランで、出たところ勝負!

コロナ禍前の令和元年の夏も北海道へ行きました。その帰りのフェリー(小樽~舞鶴)が台風でまさかの欠航となり、仕事に穴を開ける訳にもいかないので、旭川から長門までの2300kmを自走で帰って来ました。単純計算で1日300-400km。長門から福岡を往復する程度の距離を毎日走る。連日の長距離運転でも疲れを残さないという点において、自分仕様のキャンピングカーでの睡眠は最高でした。ゆっくりじっくりという訳にはいきませんでした。平泉・中尊寺金色堂や岐阜・白川郷の世界遺産を始め、たくさんの観光地を効率よくまわることができまし

た。また函館や富山ではミシュラン星付きのお店で食事&宿泊。山口からキャンピングカーで来ていることを告げると、まずビックリされますが、必ず大将も車を見にこられます。そして翌朝まで快く駐車場を提供。さすが、一流料理人は心も広い!

止むを得ず旅程を大幅変更したせいで、逆に新鮮でワクワクする本当に楽しい旅になりました。ハプニングやイレギュラーな事が起こっても、自由にプランを練り直すことが出来る…これもキャンピングカーの魅力だということを再認識させられた次第です。

「夏は北海道!」これまで10回以上、渡道していますが、金科玉条として疑うことはありませんでした。それが今、グラグラと揺らいでいます。東北まわりの東京?日本海沿いに本州縦断?いやっ地方のミシュラン巡りも良いなあ…来年の夏休み、どこに行こうかと妄想が果てしく膨らんでいます。



宗谷岬(北海道稚内市)

C Jam Blues

下関市 松原 信行

このレコードに出会ってから、丁度50年になる。紹介してくれたのは石黒公雄君です。当時、彼は山口大学医学部軽音楽部（Latin Echoes）に属し、トランペットを吹いていた。親友という程の仲ではなかったが、彼の下宿にはよく遊びに行っていた。彼の人懐っこい性格もさることながら、ジャズのレコードを聴かせて貰ったり、蘊蓄（うんちく）を聞かせて貰ったりするのが楽しみだった。ポリクリが終り近くなった12月、遊びに行くと襦袢（どてら）を羽織った姿で迎えてくれた。炬燵に座るなり、彼はニヤニヤしながら、「最近あるレコードを先輩から教えてもらったんじゃが、これが中々ええん

じゃ。」、彼はレコードに針を落として、ミルでコーヒー豆を挽き始めた。

レコードは「Jazz at Santa Monica Civic '72」。3枚組みのアルバムで、1972年8月のカリフォルニア州サンタモニカでのライブが収録されている。うち1枚はエラ・フィッツジェラルド（エラ）のボーカルを、カウント・ベイシー・オーケストラ、トミー・フラナガン・トリオらがバックで演奏している。その日はこの盤を聴かせて貰った。「Shiny Stockings」から始まり、「What's Going On」などの名曲が続く。そして万雷の拍手と声援の中、アンコールの「C Jam Blues」が始まった。出だ



写真 アルバムジャケット

しはカウント・ベイシーのピアノソロ。次第に各パートが加わり、曲に厚みが増してくる。エラのスクワットが被^{かぶ}さりボルテージが更に上がる。エラと各セクション（トランペット、トロンボーン、テナーサックス）との絡^{から}みが堪らなくご機嫌だ。とりわけ最後のトランペットとの絡みは「鳥肌」もので、彼がこの盤を選んだ理由がわかった。演奏者達は初めいい演奏しようと思っていたのだろうが、アドリブが熱を帯びて来ると、聴衆そっちのけで浮かれ始めた。そっちのけにされた聴衆も、ステージでのお祭り騒ぎをノリノリで楽しんでいる。そんな雰囲気^{まなこ}がレコードからご機嫌に伝わってくる。

この曲はデューク・エリントンが 1942 年に作曲した。メロディーは 12 小節のみで、音階も「ソ」と「ド」だけ。スタンダード・ナンバーでは一番シンプルかも知れない。こんな素朴な曲がファンキーに変身するのだから、アドリブは本当に「魔法」だと思う。

聴き終わって放心状態^{ひげづら}でいると、濃い髭面のドングリ目がニヤリと笑った。「凄いだろ、エラの C Jam」、私は「うん」としか答えられず、冷めたコーヒーを口に含んだ。

木枯らしの吹く帰り道、心はホッコリして頭の中は C Jam Blues で一杯だった。ジャズの面白さや楽しさに少し触れたような気がした。「ジャズにはまだまだ面白い世界があるに違いない。」、^{うち}内なる眩^{くら}きがその後、私を更なるジャズの世界に引きずり込んでいった。

当時、このアルバムは五千円。貧乏学生にはとても手が出ない。入手したのは医師になった翌年だった。当時はまだまだジャズの知識が浅く、レコードの解説を読んでも内容はチンプンカンプン。しかし後年、レコードや CD のコレクションが増えるにつれ、ジャズの知識が深まっていった。改めて解説を読み直すと、オスカー・ピーターソン、スタン・ゲッツ等々、超一流のジャズメン達が演奏しているではないか。心底驚いて、それまでの浅学を恥じ入るばかりだった。「ジャズにはまだまだ面白い世界があるに違いない。」、今でも内なる眩^{くら}きが聞こえる。

レコードの箱の表面や側面はボロボロに擦り切れているが、盤面にはほとんどキズはない。いい音で聴かせてくれる。盤に針を落とすと、あの日の光景が目に浮かんでくる。気持ちは 25 才に。

音楽は時にタイムマシンに変身する。

「Jazz at Santa Monica Civic '72」は一番の愛聴盤ですが、なかでも「C Jam Blues」は今では石黒公雄 君への鎮魂歌になっている。彼と出会っていなければ、このアルバムとの出会いも決してなかった。

